

# HEEM' 09

## 第4期第2回

### 北海道環境教育ミーティング報告書

どなたにも、  
気軽に、  
環境教育を体験してほしい…  
だから **体験屋台**

#### 目 次

体験屋台・アーススタジオプログラム紹介	・・・2
来場者	・・・5
ミニ・フォーラム	・・・6
開催を終えて	・・・8
北海道環境教育ミーティングのあゆみ	・・・8



### 「体験屋台」の概要と趣旨

北海道環境教育ミーティング実行委員会では、2005 年度から「子どもから大人まで気軽に“環境教育”に触れることができるように、との思いから「体験屋台」を実施しています。環境教育に関わる団体や個人の方々が、普段実施しているプログラムを屋台のように並べた環境イベント、それが「体験屋台」です。

この事業は、◆道内の環境教育実践者が、一般来場者からの活動評価を得ることや出展者が相互に活動を体験することを通して、今後の活動のレベルアップをはかること、そして◆広くたくさんの方に環境教育プログラムを体験していただくことを目的にしています。

日時：2010/2/13.Sat

会場：札幌エルプラザ 2F

#### 【体験屋台当日スケジュール】

- 9:30 出展者の開場・受付
- 10:00 出展者ミーティング
- 10:30 体験屋台開場
- 15:00 体験屋台閉場
- 16:00 ミニ・フォーラム
- 17:40 終了

【主催】第4期第2回北海道環境教育ミーティング実行委員会

【共催】札幌市環境プラザ（指定管理者（財）札幌市青少年女性活動協会）、（社）日本環境教育フォーラム

【後援】環境省北海道地方環境事務所、北海道、北海道教育委員会、札幌市、札幌市教育委員会、（財）北海道環境財団  
環境省北海道環境パートナーシップオフィス、（独）土木研究所 寒地土木研究所

【協賛】いしかり KIDS21 ※この事業は、（社）日本環境教育フォーラムの助成金を使用して、開催しました。

環境教育プログラムを体験できる**体験屋台**と  
ビデオ上映などの**アーススタジオプログラム**

合計22団体から、プログラムが提供されました。

いつもの活動の中から選りすぐった人気ネタ、今回の出展のために考案した新作プログラム、そして前年度出展から改良を加えた進化バージョンなどの「体験屋台」プログラムと、アーススタジオを使用したビデオ上映や紙芝居などの、アーススタジオプログラムが提供されました。また、今回は、受付そばの屋台に来場者が偏らないように順路を設けました。順路の冒頭となった環境プラザの展示コーナーを活用した屋台は、常ににぎわいがありました。

**あっちこっち**  
札幌市環境プラザ



においをかいだり実験をしたりする環境プラザ展示物ラリーは多くの人で賑わいました。

**教えて！ ezorock**

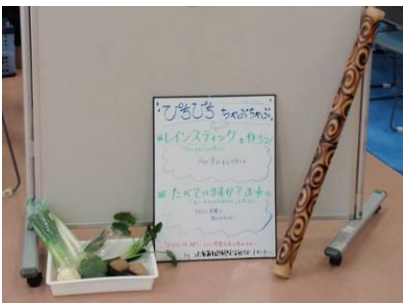
環境 NGO ezorock



わりばしと牛乳パックで紙すきをしました。紙は木からできていることを伝えました。

**ぴちぴち ちゃぷちゃぷ**

北海道自然体験活動サポートセンター



雨音がする「レインスティック」と野菜にどれ位「水」が含まれている？を行いました。

**川の蛇行と私たちの暮らし**

(独) 土木研究所 寒地土木研究所



川の模型に水を流しどの様に違うのか体験し、私達の生活や川の流れ方を学びました。

**自然のおくりもの**

(財) 札幌市公園緑化協会



公園で出た落ち葉や木の実などを使って楽しく工作をし、サケの赤ちゃんも観察しました。

**のんき屋かあさん**

のんき屋かあさん



先人が作った古典食材を次世代へ伝えたいという事で参加、自分も刺激を受け、とても楽しい1日でした。

1月20日  
「出展者のつどい」開催！

初の試みで出展者の皆様と、屋台配置、屋台つうしんぼの項目、出展者による報告書の活動報告執筆の役割分担等を決めることができました。



## ガールスカウトチャレンジキッズ by 北海道第 10 団

(社) ガールスカウト 北海道第 10 団



今年も大盛況の『べっこうアメ』おいしい・楽しい。みんな、おうちで作ってみたいかな。

## 野菜でおやつをつくろう！

学生と地域の人でつくる団体 PoPs



人参が生産されて廃棄されるまでを紙芝居で学びながら、人参ゼリーを作りました。

## ひぐまトランクレッスン

JBN 日本クマネットワーク



今回は入り口正面に陣取らせてもらいインパクト勝負の私達としては大変助かりました！

## まるっこいハチは、どさんこだい！

フォレストーズ・クラブ



まるっこいハチの仮装と紙芝居で、ハナバチの暮らしと外来種の見分け方を知ってもらいました。



## 虫・種・愛す

NPO 法人 ねおす

種は、どのように回るの？顕微鏡でじっくり見て、紙とクリップで作ると、よくわかる！

## 自分たちで作る 100 年後の環境

二セコ自然共育楽習



参加者が自分の街を作るとしたらどんな街が良いのか地図を作ってもらった。おまけに木のパズル。



## 火山クラフト道場！ & 書き初め

川湯エコ  
ミュージアムセンター

クラフト体験は、作る物が決まっていた方がいいなど参加者のニーズが分かりました。

## どうぶつたちのふしぎ

札幌市円山動物園



生物多様性、動物の模様などを考えるきっかけになるようなゲームを実施しました。

2 月 8 日  
「ボランティア打ち合せ」開催！

安全、円滑に当日の運営が出来るように、初めての打ち合わせ。担当も決まり、当日の準備の手伝いもお願いしました。

## 地球温暖化ふせぎ隊 新作ゲーム祭！

地球温暖化ふせぎ隊



パズルやクイズなどのゲームを行いました。子供達にも楽しんでもらえました。

## 二酸化炭素の性質と地球温暖化

環境学習フォーラム北海道



二酸化炭素の生成とその性質を調べる実験、地球温暖化との関わりを考察する体験学習。親子連れが半数、親の方がたのしんでいました。

## さわってみよう あそんでみよう

札幌市定山溪自然の村



実際に木を触り、虫めがねでのぞいたりして、同じ松の種類でもいろいろな特徴があることが分かりました。少しでも長さが変わると回り方が変わる手作りゴマに大人も真剣です！

## 友達100人でできるかな？

RenRen



大人と子どもが一緒に楽しめるゲームを行いました。大人数での活動はできませんでしたが、入場から終了時間まで、ずっと楽しんでくれたファンもいました。

## 札幌市環境局

札幌市環境局



クリック募金事業で学校に提供する教材で、電気に関する体験学習を行いました。

## ちょっとがいっぱい

札幌市環境教育リーダー（有志）



自然観察の雨天プログラムや、スズメの体重を再現した物で重さを実感してもらいました。

## 自転車100kmの旅

NPO 法人  
あそベンチャースクール



札幌～積丹半島 神恵内村までの100kmの自転車旅行の様子を紹介しました。

## こども環境情報番組 エコチルTV

（株）アドバコム



環境お助け戦隊えこりーなと一緒に、環境やエコを楽しく学んでもらえたと思います。

2月12日  
前日準備！

環境プラザの協力もあり、会場の設営、飾り付けはスムーズ。半数の出展準備も行われ、実行委員は当日に向け余念がありません。



体験屋台への来場者は・・・

来場者 大人 53 名 子ども 83 名、 出展者 大人 70 名 子ども 4 名  
開催関係者 大人 23 名 (ボランティア 13 名を含む。出展者との重複の 3 名を除く。)

合計 大人 143 名 子ども 87 名

当日はカナダのバンクーバーオリンピックの開会式と重なり、また札幌市内の他施設でもイベントが開催されていたためか、前年度より来場者数が減りました。しかし、来てくださった皆さんは、大変ご満足いただきお帰りになったようです。また、出展者や HEEM 関係者も時間を作り、他の出展者の活動を体験する良い機会となりました。来場者の皆様には退場の際に、感想等を書いていただき、ホワイトボードに貼り出しました。これは出展者の皆様、HEEM 関係者へフィードバックされ、今後の活動へのレベルアップに役立てるように考えて、行ってきました。今年度も多くの感想、ご意見や、メッセージ等を書いていただきました。字の書けないお子さんも絵を描いてくださっています。皆様、ありがとうございました。

## 来場者のみなさんからの感想・メッセージ

- ・いろいろ食べたりあそんだりして楽しかったです。
- ・たくさん体験したりできて、楽しかった。ふだんできないことができてとてもよかった。またやっていってみたい。
- ・とっても楽しかったです。もっとエコなどいろいろべんきょうしたいです。
- ・たいけんをして、こまを作ったんだけど以外にかんたんで楽しかったです。
- ・いろいろなイベントがあってとても楽しかったです。ためになったのでよかったです。
- ・すごくためになることばかりで、いいイベントでした。体験できたり、自分もできそうなことがたくさんあって楽しかったです。
- ・わからなかった事がわかるようになった。だから友だちにもおしえたいな。
- ・どのブースも“環境”の取り組みに対して来た方にていねいに教えていました。体験型とてもいいです。
- ・すごく楽しかったです！また来たいです。
- ・スタンプラリーの問題はおもっていたよりむずかしかったけどとてもためになりました。
- ・スタンプラリーがたのしかったです。ためになったので良かったです。
- ・クラフトやぬりえゲームなど気軽にできるものとおして学べるところがいい。スタッフも明るくていねいなので安心して、参加できました。
- ・とても楽しくて。勉強になりました。ぜひ次回も参加したいです。ブラボー！！Thank you!!
- ・内容がとっても充実していて、驚きました。いろいろな体験が出来て目からウロコでした。楽しかったです。来年もぜひ！
- ・子どもといっしょに楽しめました。また、来たいと思います。
- ・すごく楽しくてためになった。食べものとかは家でも作りたい。
- ・楽しく実際に体験できておいしく学べてお得でした。
- ・人と何かのかんけいがたのしかった。
- ・おもしろかったです。べっこうあめが、おいしかったです。
- ・じっけんしながらまなべてたのしかったです。
- ・べっこうあめを作ったり、チョコ食べたりして、楽しかったです。
- ・とてもためになりました。たのしく体験ができて、ここに来てよかったです。



2月13日  
「北海道環境教育ミーティングを  
考える交流会」開催！

楽しいのはもちろん。「恋のから騒ぎ」手法による参加者の今後の活動への思いなど、熱く語られ、つながりが深まる時間を過ごしました。

## ミニ・フォーラム 環境教育活動を進めていくために、多様な連携をめざして

体験屋台の閉場後に出席者を含む約100名が集まり、今後の道内における環境教育活動が多様な主体間の連携によって進むよう、情報や意見の交換を行いました。

前半には、北海道大学 環境教育研究交流推進室 特任スタッフ 吉村暢彦氏、北海道環境生活部環境局 環境政策課環境推進グループ 東郷典彰氏、札幌市 環境局 環境都市推進部 環境計画課 佐竹輝洋氏らゲスト、さらに札幌市円山動物園、札幌市環境プラザ、大学生や大学院生による活動団体、NPOのからの情報提供とアピールを受けました。札幌市では、環境関連施設の連携強化のためのプロジェクト会議を開催し、連携事業を実施していることをはじめ、組織内、団体間における連携の取り組み状況を知ることができました。

その後は、各ゲストやアピール団体を囲むグループに分かれ、それぞれの方法で意見交換を実施しました。各グループでは、以下のような情報や意見の交換がありました。



### 北海道大学

北海道大学の事業を核に学生と大学との関わりについて話が進みました。大学としては、学生がやりたいことをつかんでそれを具体的な活動に結びつけたいとの意向が示され、大学の環境教育活動に発展を期待させる場となりました。

### 北海道

自然体験活動を接点に、一次産業や子ども、大人などの各対象への取組事例や、子どもの見学者、来館者に向けたプログラム提供の事例を紹介し合った後、北海道と団体、都市と地域の連携など、具体的な情報交換を行なった。

### 札幌市

情報を「受取る」「知る」という事は、「活用できる」という事に直結する。『せっかくやるなら！』より良い結果になるよう、仕組みや取組み方も含め期待する。団体としては直接的、間接的に連携できるのではないかな。

### 札幌市円山動物園

動物を身近に感じ興味を持ってほしい。答えが一つでは無く、いくつか考えられるような、小学校・企業の方が使える教材を提供。自然も一通り揃っている動物園を会場として活用してもらいたいとのPR。またゾウがいない動物園についての説明に興味深く聞きました。

## 意見交換の概要

### 札幌市環境プラザ

環境関連施設の連携について話し合い、「施設を活かした連携・取組」について具体的なアイディアが出されました。まず互いの施設を知ることが大切という意見や情報共有のしくみづくり、合同イベントの実施など、実現可能で広がりが期待できる内容でした。

### 北海道自然体験活動 サポートセンター

学校や地域での環境教育や自然体験活動等の知的、人的面でのサポートを主な目的に設立されるNPO法人北海道自然体験活動サポートセンターの紹介がありました。テーブルには、自然体験活動を中心に活動されている方が集まり、今後の連携方法等について意見交換を行いました。

### 環境 NGO ezorock

地域のお祭りという場所を使ってどのような取組みができるかというテーマで話し合いました。地域のお祭りに参加することで、地域住民に直接ごみの分別を伝えることができ、それが家庭でのごみの分別につながり、地域のごみ問題につながるという話をしました。

### 学生と地域の人で つくる団体 PoPs

「地域の人をメンバーに得るには？」の課題解決のため、問題点を整理し、改善策を検討しました。「活動目的が漠然としている」「活動歴約半年。一気には進まない」ので、「団体加入前に、目的や活動内容を知り、気軽に参加する段階を用意する。まずはキャッチコピーを作ってみよう」と…

## 各屋台つうしんぼ発表会

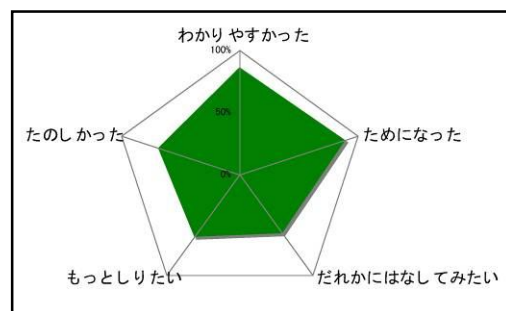
フォーラム後半では、各出展に対する来場者からの評価を共有しました。出展者それぞれが提供した活動内容や設定目標が来場者の感想と合致していたかを認識することで、今後の活動プログラム企画や実施の際の指導や解説の方法に対するヒントを得るふりかえりとなりました。

### 参加者からのフィードバック「屋台つうしんぼ」

体験屋台は、来場者に環境教育プログラムを提供すると同時に、出展者のスキルアップを図ることも目的としています。そこで、それぞれの屋台の出展者が実施したプログラムについての参加者からのフィードバックを得る手段として、実行委員会では、「屋台つうしんぼ」を用意しました。これは、各屋台の体験者に、5項目（「わかりやすかった」「ためになった」「誰かに話してみたい」「もっと知りたい」「楽しかった」）と自由記述で感想を書いていただいたもので、終了後は、各出展者にお渡しするものです。なお、昨年の「つうしんぼ」の項目の内、「わかったことを（おうちで）やってみたい」を「もっと知りたい」に変更しました。

### フィードバックの「見える化」、レーダーチャート

「屋台つうしんぼ」に〇がついたそれぞれの項目数を、回答者数で割った数をレーダーチャートで示し、出展者の振り返りの場「ミニ・フォーラム」で報告し、出展者の意図やプログラムの特徴、参加者の評価を共有しました。レーダーチャートは、この形が一番良いというものではなく、それぞれの出展者が目的・ねらいを明確化し、参加者の評価を視覚的に確認する手段として利用するものです。



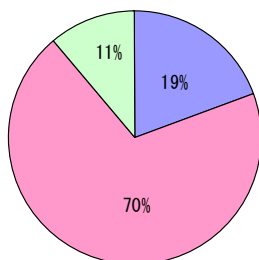
ミニ・フォーラムでは、最初に出展者から、プログラムでねらったレーダーチャートの形を話してもらい、次に実際の評価を表示しました。各出展者からは、予想通りの評価や意外な評価に対して「嬉しい」「励みになる」という感想、評価を通して気づいたことや、今後、力を入れたい点、今後の取組などが話され、短い時間ながら有意義な振り返りの時間を持てたようです。

## 成果の評価

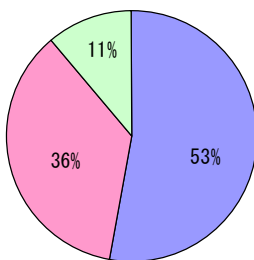
フォーラムの最後に、出展とミニ・フォーラムに参加した成果についてお伺いしました。以下の3つの設問に対して、色カードを掲げて3段階の評価を行いました。「今後に役立てられそう」の回答には7割以上の方に「星3つ☆☆☆いただきました！」ので、活動に役立つヒントや情報、元気などをお持ち帰りいただけたようです。



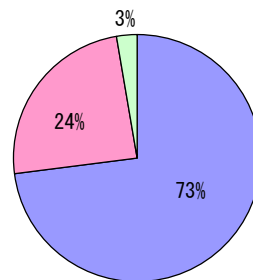
Q1 あなたの団体の活動を  
知っていただけましたか？



Q2 多様な連携が期待  
できそうですか？



Q3 今後に役立てられそう  
ですか？



円グラフ凡例：☆☆☆☆、☆☆☆、☆☆、☆☆、☆☆



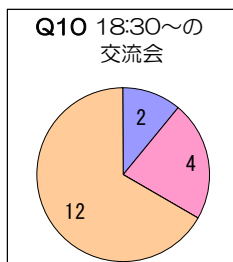
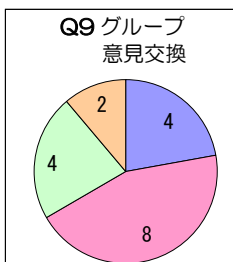
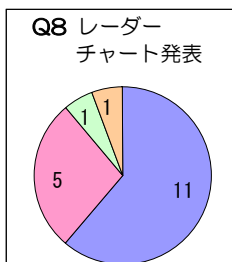
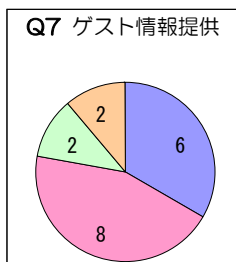
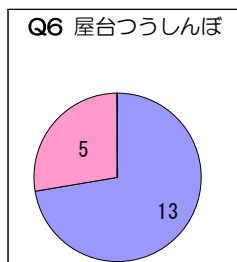
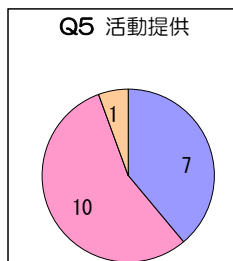
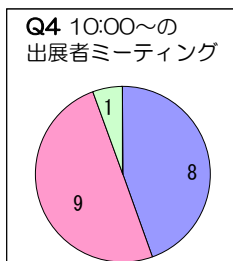
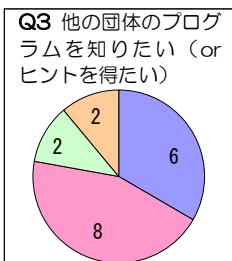
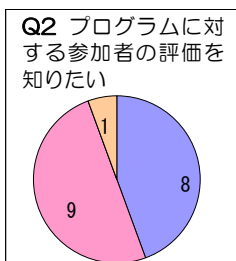
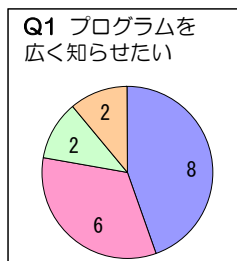
## 開催を終えて

## 終了後に出席者のみなさまにアンケートをお願いしました

22出展者のうち18団体から、ご回答をいただきました。参加目的においては「プログラムに対する参加者の評価を知りたい」が、他の「プログラムを広く知らせたい」「他の団体のプログラムを知りたい」の計3つなかで最も高いことに対して、実際に参加した満足度は「屋台つうしんぼ」次いで「レーダーチャート発表」への評価が高かったことを対比させて考えると、出展者の参加目的は、ある程度高く達成されたと思われます。なお、事業運営に感じていただいたご意見は、次回以降に活かしていきたいと思ひます。

### 参加の目的は？ (Q1～3)

### 実際に参加された満足度は？ (Q4～10)



円グラフ凡例：★★★★、★★★、★★、★、■は無回答（不参加）

**たくさんの「持ち寄り」に感謝して** 体験屋台は、そもそも各出展者に活動を持ち寄っていただく「持ち寄り」による開催事業です。今回は、さらに、開催前に「出展者のつどい」、終了後には「HEEMを考える交流会」を開催し、たくさんのアイディアやご意見をいただきました。特に「出展者のつどい」への出席率は80%（18団体）と非常に高く、出展内容をふまえて会場の配置計画を作成することができました。また、この報告書のP2～4掲載写真は、出展者に「ご自慢ショット」を撮影提供いただいたものです。さらに、一口500円の協力金をお願いさせていただきました。ボランティアの皆様には、事前作業段階からご参加をいただきました。多くの共催、後援に支えられ、力強い協力者にもお世話になりました。開催日には、かつての実行委員や、遠く帯広から1996年参加者のご来場もいただき、「北海道」環境教育ミーティングとして継続開催してきたことの意識を新たにしました。このように、たくさんの皆様の知恵や費用や労力の「持ち寄り」で、開催できましたことお礼申し上げます。

## 北海道環境教育ミーティング（HEEM）のあゆみ

1994年に第1回日本環境教育フォーラム報告会を開催し、そのなかで北海道ミーティングの実行委員会設立が提案されました。翌1995年に実行委員会を立ち上げ、「北海道における環境教育の発展」を目的に「北海道環境教育ミーティング（HEEM）」がスタートしました。その後は、ほぼ一年に一度の割合で事業を開催してきました。情報交換会、講演会、シンポジウム、ポスターセッション、宿泊型でじっくり取り組むワークショップ、相互活動体験など、開催内容や形態を試行錯誤しながら、道内で環境教育に関わる団体や個人が、一堂に会する場を企画運営してきました。2005年からは、これらに加え、多くの人に環境教育活動の体験機会を提供し、その評価を得ることで、活動のレベルアップや担い手のスキルアップを図ることを目的にして体験屋台を実施しています。今回は、社団法人日本環境教育フォーラムの助成金を使用して、開催しました。

### 第4期第2回北海道環境教育ミーティング報告書

発行／2010年3月

発行所／第4期第2回北海道環境教育ミーティング実行委員会  
〒005-0002

札幌市南区澄川2条3丁目6-3 本富寿美恵方

E-mail heem.mail@gmail.com

TEL/FAX:011-813-9993

編集・テキスト／岡崎朱実・菊田融・杉山若菜・高森美希子

田中住幸・田中裕紀子・本富寿美恵・丸山博子・宮本奏

写真／木村恵巳・草野竹史ほか

**協賛金・協力金のお礼** いしかり KIDS 他7団体よりご協力をいただきました。ありがとうございました。おかげさまで赤字にならず、実行委員の負担なく終了することができました。

### 第4期第2回北海道環境教育ミーティング実行委員会

実行委員長：丸山 博子（丸山環境教育事務所）

副実行委員長：杉山 若菜（旭山公園キッズ）

事務局長：本富 寿美恵（手仕事屋未然）

監査：高木 晴光（NPO 法人ねおす）

実行委員：岡崎 朱実（NPO 法人環境活動コンソーシアムえこらぼ）

菊田 融（共育考房かわさん）

木村 恵巳（NPO 法人ねおす）

田中 住幸（NPO 法人あそベンチャースクール）

田中 裕紀子（いしかり KIDS21）

浜 久美子（NPO 法人 EnVision 環境保全事務所）

協力者：草野竹史（環境 NGO ezorock）

山本泰志（（財）北海道環境財団）

檜山知弘（WOODY HOUSE DESIGNS）